

タイトル：頰椎疾患および腰椎疾患の良導絡を用いた皮膚電気抵抗興奮部および抑制部の特徴

Title : Characteristics of skin electrical resistance excited and inhibition parts using Ryodoraku for cervical and lumbar vertebral diseases

所属：ロコモステーションおとな塾 森 はりきゅう院¹⁾、篠路整形外科リハビリテーション科²⁾、北海道文教大学 人間科学部 作業療法学科³⁾、医療法人社団 篠路整形外科⁴⁾、医療法人社団 朋佑会札幌産科婦人科⁵⁾

Attribute : Mori Acupuncture clinic and LOCOMO-STATION Mature person's cram school¹⁾, Shinoro Orthopedic Clinic, Department of Rehabilitation²⁾, Hokkaido Bunkyo University, Faculty of Human Sciences, Department of Occupational Therapy³⁾, Shinoro Orthopedic Clinic⁴⁾, Hoyukai Sapporo O.B & G.Y. Hospital⁵⁾

氏名：森健太郎^{1,2)}、伊藤拓志²⁾、金子翔拓^{2,3)}、池本吉一⁴⁾、佐野敬夫⁵⁾

Name : Kentaro MORI^{1,2)}, Takushi ITO²⁾, Shota KANEKO^{2,3)}, Yoshikazu IKEMOTO⁴⁾, Takao SANNO⁵⁾

キーワード：良導絡、初回評価、皮膚電気抵抗、頰椎疾患、腰椎疾患

【目的】良導絡は、交感神経の反応を皮膚の電気抵抗を測定することで評価し、各臓器と経穴の関連を系統化して評価できる方法である。頰椎疾患や腰椎疾患による慢性疼痛の発生には自律神経機能の異常も一因であるといわれ、良導絡を用いて皮膚電気抵抗の興奮部および抑制部を評価することは重要である。今回、頰椎疾患（頰椎ヘルニア；以下 CH）、腰椎疾患（腰椎ヘルニア；以下 LH、腰部脊柱管狭窄症；以下 LCS）の症例を対象とし、良導絡を用いて皮膚電気抵抗を評価・測定した結果、疾患に関わらず、特徴的な所見が得られたので報告する。なお、データ採取および本学会での報告に際し本人より同意を得ている。

【対象と方法】対象は、CH42名（男性17名、女子25名）、平均年齢55.2歳、LH47名（男性19名、女性28名）、平均年齢54.1歳、LCS27名（男性19名、女性8名）、平均年齢74.9歳で、計116名であった。方法は、初回評価時に、良導絡規定部位の皮膚電気抵抗をノイロシステムビジョン（ノイロソフターDS-208S）にて測定した。肺経（LU）、心包経（HC）、心経（HT）、心腸経（SI）、三焦経（TH）、大腸経（LI）のH1～H6のL・R、および脾経（SP）、肝経（LV）、腎経（KI）、膀胱経（BL）、胆経（GB）、胃経（ST）のF1～F6のL・Rの電気抵抗値（ μA ）の平均値を算出。平均値の比較のため一元配置分散分析の後、多重比較を実施した。有意水準は5%未満とした。

【結果】統計解析の結果、CH、LH、LCSの疾患に関わらず、皮膚電気抵抗値は、HTのH3L・RとGBのF5L・Rは抑制し、LIのH6L・RとSTのF6L・Rは興奮した（ $p < 0.05$ ）。

【考察・結語】良導絡を用いた結果、疾患に関わらず、皮膚電気抵抗値は、HTとGBは抑制し、LIとSTが興奮することが明らかとなった。各良導絡の平均電流量の分布および異常良導絡の出現頻度と被験者の訴えから見ると、中谷がまとめた『良導絡症候群表』と類似するものが多く、過去の研究データを支持する結果であると考えられる。